

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K03048

研究課題名（和文）発達障害児の養育者を対象とした早期支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Early Family Intervention Programs for Caregivers of Children with Developmental Disabilities

研究代表者

竹澤 大史（Takezawa, Taishi）

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：80393130

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：発達障害のある幼児及び児童の養育者を対象とした家族支援プログラムを実施した。幼児の養育者には、主に発達障害の特徴や子育てに関する知識及び方法を系統的に伝える心理教育プログラムを実施した。プログラムの開始時及び終了時に参加者の抑うつ感及び育児ストレスの状態を測定し、プログラムの実施前後における変化を分析し、プログラムの効果を検証した。児童の養育者には、主に子どもの行動の捉え方や具体的な子育ての方法について伝えるペアレントトレーニングを実施した。プログラムの開始時及び終了時に、参加者の養育態度及び子どもの適応行動の状態を測定し、プログラム実施前後における変化を分析し、プログラムの効果を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

プログラムに参加した養育者において、発達障害や子育てに関する知識やスキルを学ぶ経験を通して、養育行動の改善や抑うつ感の低減、また子どもの適応行動の改善につながる可能性が示唆された。発達障害のある子どもの養育者への支援のニーズを考えた時、子どもの診断の前後から、同じ立場の学び合いながら、障害に関する知識や育児の具体的な方法などを体系的に習得する機会を提供することが重要である。客観的な指標を用いて効果を検証しながら、プログラムの内容や方法について検討する必要がある。

研究成果の概要（英文）：Many caregivers of children with disabilities have special needs related to acceptance of disabilities and knowledge of parenting from early stages of their children's development. However, they have little opportunity of early intervention focusing on these special needs of caregivers.

We have piloted an early intervention program for caregivers of children with developmental disabilities, investigating effectiveness of the program. Measures on depression, parenting stress, parenting attitude and adaptive behavior were used. We also discussed necessary components and frameworks of the program which could enhance parenting attitude and adaptive behavior, and reduce depression and parenting stress of caregivers of children with developmental disabilities.

研究分野：発達障害、知的障害、特別支援教育心理学

キーワード：発達障害 家族支援 心理教育 早期支援

1. 研究開始当初の背景

発達障害のある子どもの養育に当たっては、障害の特徴や育児の方法に関する多くの知識を養育者が持つことが望まれる。しかし、診断告知での衝撃が大きく、医療機関や相談機関を通じた情報提供では十分な知識が獲得されにくい。このため診断の前後、少し時間を置いたところで、障害に関する知識や育児の具体的な方法などを体系的に習得する機会を提供することが重要である。また、養育者が日常生活から離れた環境で、子どもと向き合い、同じ立場の親と学び合いながら、子どもや自分自身を見つめ直す機会を提供することも重要である。養育者を対象とした早期支援方法として、心理教育やペアレントトレーニングなどのアプローチがあるが、各々では多様な支援ニーズに対応することは難しく、また複数のアプローチによる相互的な影響や効果についても検討されていない。以上のことから、各アプローチの効果検証に加え、複合的な効果についても調べる必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、発達障害のある子どもの養育者を対象に、障害や子育ての知識やスキルの伝達を中心としたプログラムを試行し、効果検証可能で包括的な早期支援プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

幼児の養育者には、主に発達障害の特徴や子育てに関する知識及び方法を系統的に伝える心理教育プログラムを実施した。発達障害についての基本的な知識及びかかわり方の伝達、子どもの社会性、コミュニケーション、運動・感覚の発達や学習についての知識、教育や福祉のサービスについての情報、将来の暮らしや仕事などについての見通し等のテーマについて講義の内容を検討した。プログラムの実施者は、医師や言語聴覚士、作業療法士、心理士、医療ソーシャルワーカー、ペアレント・メンターであった。プログラムの各セッションは約120分間で、年間計8回実施した。プログラムの開始時及び終了時に参加者の抑うつ感及び育児ストレスの状態を測定し、プログラムの実施前後における変化を分析し、プログラムの効果を検証した。

児童の養育者には、主に子どもの行動の捉え方や具体的な子育ての方法について伝えるペアレントトレーニングを実施した。子どもの行動の捉え方や記録の取り方、養育者のストレスマネジメント、支援グッズの作成、課題解決への具体的な取り組み等のテーマについて講義及びグループワークの内容を検討した。プログラムの実施者は、心理士、ペアレント・メンターであった。プログラムの各セッションは約120分間で、年間計9-10回実施した。プログラムの開始時及び終了時に、参加者の養育態度及び子どもの適応行動の状態を測定し、プログラム実施前後における変化を分析し、プログラムの効果を検証した。

4. 研究成果

幼児の養育者を対象としたプログラムに、計11名が参加した。参加者の性別は全て女性で、平均年齢は38.50歳(標準偏差5.70)であった。子どもの性別は男性が9名、女性が2名、月齢は平均45.91か月(標準偏差13.98)であった。プログラム前後の結果を比較したところ、プログラムの終了時に、肯定的・否定的養育行動尺度の「意思の尊重」領域の得点が有意に高

く、また抑うつ尺度の「認知面」領域の得点が有意に低かった（それぞれ、 $t=2.87$, $p<0.05$; $t=2.87$, $p<0.05$ ）。

児童の養育者を対象としたプログラムに、計計 22 名がプログラムに参加した。参加者は全て女性で、年齢は平均 40.95 歳（標準偏差 5.08）であった。子どもの性別は男性が 19 名（86.36%）、女性が 3 名（13.64%）で、月齢は平均 85.01 カ月（標準偏差 21.89）であった。プログラム前後の結果を比較したところ、「厳しい叱責・体罰」領域において、終了時の得点が有意に低かった（ $t=2.22$, $p<0.05$ ）。また子どもの適応行動について、Vineland- の「コミュニケーション」、「日常生活スキル」、「受容言語」、「表出言語」、「身辺自立」の領域において、終了時の得点が有意に高かった（それぞれ、 $t=3.16$, $p<0.05$; $t=3.20$, $p<0.05$; $t=2.66$, $p<0.05$; $t=4.15$, $p<0.05$; $t=4.34$, $p<0.05$ ）。「不適応行動」の領域において、終了時の得点が有意に低かった（ $t=3.09$, $p<0.05$ ）。

上記のプログラムに参加した養育者において、発達障害や子育てに関する知識やスキルを学ぶ経験を通して、養育行動の改善や抑うつ感の低減、また子どもの適応行動の改善につながる可能性が示唆された。一方、養育者の育児ストレスは軽減されにくい傾向が示された。今後は、養育者の育児における不安や悩みを解消するプログラムの内容と方法を検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 上野智子・竹澤大史・近藤親子・菅道子	4. 巻 7
2. 論文標題 特別支援学校における音楽科および音楽を活用した「自立活動」に関する実態調査	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小山朱美・竹澤大史・武田鉄郎	4. 巻 7
2. 論文標題 特別支援学校における自立活動の授業を通じた自閉症スペクトラム障害（ASD）と知的障害のある児童を対象とした自発的なコミュニケーションに指導と評価について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 59-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 竹澤大史・成瀬朋子・小松則登・加藤智浩・小崎祐美子・長谷川桜子・吉川徹	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 自閉症スペクトラム障害のある幼児の養育者を対象とした心理教育プログラムの効果	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床発達心理実践研究	6. 最初と最後の頁 109-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Fukuda, N., Takezawa, T. & Takeda, T.	4. 巻 66
2. 論文標題 A case study focusing on enhancing social development and learning of elementary school students with developmental disabilities through self-reliance activities in special needs classes.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 HNUE Journal of Science	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tagawa, K., Takezawa, T. & Takeda, T.	4. 巻 66
2. 論文標題 Correlation between cognitive evaluation, coping and stress response of students with medical needs related with psychosomatic disorders.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 HNUJ Journal of Science	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹澤大史・福田規江・山本知佳・岩崎朝蔵・村木美奈・成末昂矢・谷本沙紀・武田鉄郎	4. 巻 6
2. 論文標題 コロナ禍における小学校特別支援学級での取り組みの経過	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要	6. 最初と最後の頁 147-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原口英之、小倉正義、加藤香、竹澤大史、吉川徹、安達潤、井上雅彦	4. 巻 42
2. 論文標題 自治体におけるペアレント・メンターの活動に関する全国調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達障害研究	6. 最初と最後の頁 271-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武田鉄郎、竹澤大史、寺尾朗代、黒江純子、中谷愛、小畑伸五、畑香織	4. 巻 5
2. 論文標題 コロナ禍、ポストコロナ社会における特別支援学校の対応及びコンサルテーションの実際.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 和歌山大学教職大学院紀要学校教育実践研究	6. 最初と最後の頁 1 - 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AA12779311.5.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Taishi Takezawa, Tomoko Naruse, & Toru Yoshikawa
2. 発表標題 A trial to evaluate the effectiveness of online parent training programs for caregivers of young children with Autism Spectrum Disorder
3. 学会等名 International Conference: STEAM EDUCATION APPLICATION TO IMPROVE QUALITY OF INCLUSIVE EDUCATION FOR CHILDREN WITH DISABILITIES (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fukuda, N., Takezawa, T. & Takeda, T.
2. 発表標題 A case study focusing on enhancing social development and learning of elementary school students with developmental disabilities through self-reliance activities in special needs classes.
3. 学会等名 International Scientific Workshop Proceedings. Impacts of Climate Change- Air Pollution on Children with Disabilities and Education: Facts and Innovations (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 上野智子、菅道子、竹澤大史、近藤親子
2. 発表標題 特別支援教育における音楽科の取り組みに関する実態調査 - 特別支援学校, 盲・聾学校を対象とした質問紙調査の分析を中心に-
3. 学会等名 日本教科教育学会 第46回全国大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 有光 興記、飯田 沙依亜、他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 432
3. 書名 感情制御ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	吉川 徹 (Yoshikawa Toru) (70456680)	愛知県医療療育総合センター発達障害研究所・障害システム 研究部・客員研究員 (83902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関